

『キリストのうちに根ざし』（コロサイ人への手紙 2章 6-10節）2023.1.1.

<はじめに> 2023年を迎えて最初の日が主日であり、礼拝をもってスタートとなります。コロナ、世界情勢、経済状況、地球環境など私たちが看過できない問題課題が山積する中ですが、これら諸問題とそこに生きる私たちには、全て治められる主キリストがおられることに目を留めましょう。

I キリストにあって歩もう(6)

①キリストを受け入れた

キリストがおられることを客観的に認めるだけでなく、私たちの生活と心にこの方を受け入れていると、今日告白できるでしょうか。キリストは私にとってどんな存在でしょうか。顔見知り、友だち、大切な客人、信頼できる相談相手、日々の歩みの同行者・導き手…。

②パウロの勧め

キリストにあって歩みなさい、と。「歩む」は坦々と生きる、日々生活することです。私たちの日常生活の一举一動、その根底にある考え・思いも、キリストと結び付けようと言います。What Would Jesus Do?(イエスならどうする?)はその一つの問い掛けです。

③試されている私たち

コロナ禍も3年目、その間に私たちの生活も大きく変わりました。今まで大切にしていた教会に集まる、礼拝(式)に参加することもままならない中にいます。新しい様式を受け入れつつ、手放してはいけない大切なものをしっかり握る必要があります。

II キリストのうちに(7)

①根ざし

植物の根は土の中に隠れ、土と一体となり、その成長は土壌に左右されます。私たちはキリストに移植された苗です。キリストから何を得て、自分のものとしているでしょうか。「~のうちに」は、キリストがどんな御方(9-10)か、その思い・意図・計画を指しています。

②建てられ

今度は建物にたとえられます。土台が健全なら、その人はキリストに似た者として日々成長し、苦心しつつも着実に建て上げられて行きます。建て上げ、作り上げてくださるのは、私たちが受け入れ、根ざしたキリスト・イエスです。

③信仰を堅くし

私たちを取り囲む世界は揺れ動いています。その中で生き抜くために、強固なキリストへの信頼の柱が必要です。「教えられたとおり」にすることは簡単なようで、実は難しいことです。キリストご自身から、またキリストに倣う人たちから、私たちは多くを教えられます。

III あふれる感謝(7)

①深い納得

取り組んで来たことが無駄にならず、忍耐が報われるとき、その結果とともに主が語られたことが本当だったと深くうなづくことができ、感謝があふれます。このような感謝の証しを、今年は多くの方々から伺えれば幸いです。

②信仰を励ます

感謝することで信仰をより強められます。感謝を通して神を指さすことに繋がるからです。それは本人のみならず、周囲にもその影響は波及していきます。感謝の伝染・増幅が今年起こりますようお願いするにはおれません。

③キリストに戻る

感謝は栄光をすべてキリストに帰すこととなります。自分から出たことではなく、すべてはキリストから出ているからです。この感謝の叫びが沸き起こるとき、世もキリストに目を向けるのではないのでしょうか。私たちの役割と責任は重大です。

<おわりに> 古きは過ぎ去って、新しい年が始まります。私たちの目をキリスト・イエスに向け、この方をより深く知り、交わり、体験するお互いとなれますように期待して、一歩踏み出しましょう。(H.M.)